

SDG s に基づく循環型農業の実践

福島県立ふたば未来学園高校 スペシャリスト系列農業3年 根本 花菜

～概要～

かつて、農業生産における肥料や農薬などによる地下水汚染や廃棄物の処理問題が起った。

そこで、限りある資源を循環させることで持続可能な農業を実現させることを目指し、様々な観点から循環型農業への取り組みがされている。

そのため、本校でもSDG sを参考に循環型の農業へ取り組むこととした。

～目的～

①減農薬栽培への挑戦 ②生産残渣の堆肥利用とその効果 ③地域の緑化活動

以上の3つを目的とし、地域環境への負担を軽減させるとともに安全な農産物の供給を目指すこととしました。

～取組内容～

①減農薬栽培への挑戦 (図1)

→温室内に電殺機4台・モスバリア1台を設置し、農薬使用量と害虫の発生数を観察する。

②生産残渣の堆肥利用とその効果 (図2)

→草花・野菜生産で発生する残渣について堆肥槽を設置し、堆肥を作り、圃場に還元する。

③地域の緑化活動 (図3)

→双葉郡の各地に本校で栽培した花で作成したプランターを設置する。



図1 令和4年3月「モスバリア」導入



図2 令和4年1月導入



図3
双葉郡各20か所に設置
警察署より感謝状を贈呈

～結果・考察～

減農薬栽培については右のグラフが示す通り、「モスバリア」及び「電殺機」導入年度より、農薬の使用量の減少が確認できた。

堆肥利用については今年度の畑に導入したため、現段階では詳細なデータを得られていないが、生育に問題は見受けられなかった。

緑化活動では年間を通して令和4年度より活動をはじめ、地元警察署より感謝状を授与された。

農薬使用量の推移 (殺虫剤のみ)

